

まとめと要望

今回実施した受験生と教官に対するアンケート調査を、本委員会としては以下のようにまとめた。

1. 第 102 回医師国家試験に関して、評価できる点として以下のものがあげられる。
 - 1) 試験の時間割が事前に各受験生に知らされ、全試験問題と正解、採点調整などの情報も公開されるなど、国試の透明性が維持されている。
 - 2) 医師国家試験にふさわしい適切な良問が多く出題されている。
 - 3) 大学での学習内容と整合性のある出題内容であり、国家試験の成績が在学中の成績と良く相関している。
 - 4) 概ね良好な受験環境が用意されている。
 - 5) 高い合格率が達成されている。
2. 第 102 回医師国家試験に関して、更に改善すべき点として以下のものがあげられる。
 - 1) 事前に知らされることなく、出題方式の変更(一般問題と臨床問題が混合して出題されたこと、必修問題が 3 日間連続して出題されたこと)が行われた。
 - 2) 難しい問題や必修問題としては適当でない問題があった。
3. いわゆる「国試対策」が大学での学習に影響を及ぼしていることが、学生による教科書の選択状況や 6 年生で「国試対策」が行われている現状などから確認された。
4. 医師国家試験について、以下の点を要望したい。
 - 1) 資格認定試験であることを踏まえ、適切な良問を出題するよう、引き続き努力していただきたい。
 - 2) 試験の実施要領、(変更のある場合には)出題方式や回答の仕方を含め、事前の情報公開をお願いしたい。
 - 3) 4 月 1 日から臨床研修を開始することができるように、医師国家試験の合格発表を、より早期に行っていただきたい。
 - 4) 医師国家試験が大学での医学教育に影響を及ぼしている状況を踏まえ、医師国家試験のあり方について改めてご検討いただきたい。

おわりに

第 102 回医師国家試験は、学生、教員ともに満足度の高い試験であった。昨年の第 101 回医師国家試験が、受験生にとって満足度の低い国試であったのと対照的な結果であった。また、合格率は過去 10 年間で最高の数字(90.6%)を示した。

満足度の高かった理由としては、大学での学習と整合性のある良問が、必修問題を含めて多数出題された点があげられる。学生の不満が少なかったことは、自由記載のコメントでも、良好なコメントの数が今までで最も多かったことからもうかがえる。

今回のアンケートでは、国試に関連した大学での学習についての質問も加えた。その結果、大学での学習に国試が相当の影響を与えている様子を示唆する結果が得られた。国家試験は資格試験であるので、大学での学習や実習をキチンとやれば、特別な国試対策をすることなく、合格できるような試験であってほしいが、現実には多くの学生が 6 年生になると遅かれ早かれ「国試対策」を行うのが現実のようである。また、大学もこれに因應べく努めているフシがある。このような現状を踏まえて、国家試験も「試験のための試験」にならないよう、あり方について改めて検討する必

要があるように思われる。

今回のアンケートでも、国試そのもののあり方に関するご意見も少なくなかった。また、当委員会の活動についてのご批判もいただいた。当委員会としての活動には限界があるが、今後とも全国の大学の教員のご意見をうかがいながら医学教育と医師国家試験の改善のために微力を尽くしていきたいと考えている。今後ともご支援ご鞭撻をお願いしたい。

アンケートにご協力いただいた全国の医学部と医科大学の教職員の方々、受験生諸君、全国医学部長病院長会議の長田正昭事務局長、鳥羽清乃主任、アンケートの集計を担当した埼玉医科大学医学教育センターの齊藤恵助手に感謝申し上げたい。